

【新着参考図書】

『外国語レファレンスブック 語彙・表現・ことわざ・文字』(803.1/ニチ)

日外アソシエーツ株式会社／編集・発行 2025.8 375p 9,800円+税

1990年から2025年6月に日本国内で刊行された、外国語に関する事典、辞典、ハンドブック、年鑑など約2,300点を収録した参考図書の目録。全体を「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」などの各言語や「言語学」「世界の文字」など、16分野の見出して大別している。

『水生・湿生植物生活史図鑑』(471.7/ミヤ)

宮田昌彦ほか／編集 北隆館 2025.7 617p 20,000円+税

日本列島・中部地域と北海道から沖縄県までの水辺や海辺に分布する水草の分類学的・生態学的な調査と種子の生活史（発芽、茎葉の成長、開花、結実など）に関する研究の成果をまとめた図鑑。巻末に和名と学名の索引あり。

『誇れる郷土データ・ブック 2025年版』 古田陽久／著 シンクタンクせとうち総合研究機構
2025.3 (291.036/シン)『学校心理学事典』 日本学校心理学会／編 丸善出版 2025.6 (371.4/ニツ)『西洋人物レファレンス事典 科学技術篇』 日外アソシエーツ／編集・発行 2025.9 (283.03/ニチ)

【新着電子書籍】

『「言いたいこと」から引ける オノマトペ辞典』

西谷裕子／著 東京堂出版 2024.7 474p 2,600円+税

オノマトペを事項別に9つの分野に分け、項目ごとに意味・内容別キーワードで分類し、五十音順に並べた辞典。例えば「ぱちぱち」という擬音語は、瞬き、静電気、燃える、拍手、カメラのシャッター、スイッチ、そろばんに分類され、同じ響きでも様々なジャンルの表現で共有されていることが分かる。語彙からも引ける五十音索引付き。

※この本は電子書籍（KinoDen）で閲覧できます。

県立図書館のMyライブラリーID・パスワードをお持ちの方は[こちら](#)からログインしてください。

県立学校や市町村図書館の取寄せIDをお持ちの方は[こちら](#)からログインしてください。

【レファレンス事例】

Q. 眉山の名前の由来は万葉集の「眉のごと雲居に見ゆる阿波の山かけて漕ぐ船とまり知らずも」（船王）とされているが、難波（大阪）から眉山は見えていたのか。

A. 1. 『角川日本地名大辞典36 徳島県』 角川日本地名大辞典編纂委員会／編纂 角川書店 1986.12

p610 眉山の項に山名の由来の一つとして質問の万葉集の歌が紹介されているが、難波から見えたかどうかの記述はない。

2. 『文化誌日本徳島県』 大和武生ほか／編 講談社 1984.2

p62-63 阿波三峰と眉山

眉山の名前の由来として船王の歌が挙げられており、「この歌は大坂から阿波の方向を望んで詠んだも

ので、直接現在の眉山を指したものではなく、幕末に名付けられたものである。」とあり。

3. 『萬葉集地名歌総覧』 橋口和也／著 近代文芸社 1996.6

p 227 九九八 眉のごと 雲居に見ゆる 阿波乃山 懸けて榜ぐ舟 泊り知らずも

解説に「阿波乃山は阿波国（現・徳島県）の山。難波から四国の阿波は見えないが、西方海上の淡路島の山々をそのように呼んだのであろう。」とあり。